

学校コード F138110110382

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 研究科等連係課程実施基本組織の設置

注1

**事前相談**

注2

愛媛大学大学院 地域レジリエンス学環

## 【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

国立大学法人愛媛大学  
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	総務部評価IR課
職名・氏名	評価IR課長 織田 隆司
電話番号	089-927-9012
(夜間)	089-927-9012
e-mail	hyouka@stu.ehime-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 地域レジリエンス学環

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等 . . . . .	1
2. 授業科目の概要 . . . . .	5
3. 施設・設備の整備状況、経費 . . . . .	10
4. 既設大学等の状況 . . . . .	11
5. 教員組織の状況 . . . . .	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等 . . . . .	30
7. その他全般的事項 . . . . .	31

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人愛媛大学

## (2) 大学名

愛媛大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒790-8577  
愛媛県松山市文京町3  
(〒790-8577  
愛媛県松山市道後樋又10番13号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ニシナ ヒロシゲ) 仁科 弘重 (令和3年4月)		
理事	(ヤヒロ ヒデノリ) 八尋 秀典 (令和3年4月)		
学環長	(ウノ ヒデミツ) 宇野 英満 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)  
令和5年度に報告する内容 → (5)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考	
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員			
地域 レジリエンス学環 修士(学術)	文学関係	2 年	6 人	2年次	12 人	-	(基礎となる学部等) 人文社会科学部研究科 教育学研究科 理工学研究科 農学研究科 医学系研究科	
	経済学関係			0 人				
	理学関係			- 人				
	工学関係			4年次				- 人
	農学関係			- 人				

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1.33倍	-	1.33倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
B	入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
	入学定員超過率 B/A													1.33					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
- ・ なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1年次	[ - ] ( - )	8											
2年次	/		[ - ] ( - )										
3年次			/		/		[ - ] ( - )						
4年次	/						/		[ - ] ( - )				
計			[ - ] ( - )			[ - ] ( - )							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	8人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)  
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。  
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<地域レジリエンス学環>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
基盤科目	SDGs概論	1前	1			4					4
	レジリエンス学概論	1前	1			7	1				
	データサイエンス概論	1前	1			2					3
	デジタルエスノグラフィ実習	1前	1			1					2
	サーベイメソッド・プログラム評価法	1前	1			1					1
	プロジェクトマネジメント概論	1前	1			1					1
	小計(6科目)	—	6	0	0	9	1	0	0	0	11
実践科目	地域協働インターンシップ I	1前	1			3					
	地域協働インターンシップ II	1後	1			3					
	地域レジリエンスPBL I	1前	2			7	2		1		2
	地域レジリエンスPBL II	1後	2			7	2		1		2
	地域レジリエンスPBL III	2前	2			7	2		1		2
	小計(5科目)	—	7	1	0	7	2	0	1	0	0
専門科目	人類学特論	1後	1			1					1
	環境情報マネジメント	1後	1			1					
	環境経済学	1後	1			1					
	自然社会環境論	1後	1			1					
	コミュニティ心理学特論	2前	1			2					2
	公共ガバナンス論 I	2前	1			1					
	公共ガバナンス論 II	2前	1			1					
	地域マネジメント論 I	1前	1			1					
	地域マネジメント論 II	1後	1			1					
	海城社会学	1後	1			1					1
	ミクロ経済学	1前	1			1					1
	景観まちづくり	1後	1			1					1
	センシングと応用	1前	2			1	1		1		23
	ICT/データサイエンス/AI特論	1後	2			1					
知能的食料生産科学特論	1後	2			1						
災害情報学	2前	1			2	1				5	
バイオインフォマティクス特論	2前	1			1					1	
防災・減災工学	1前	2			1					2	
危機管理と事前復興・事業継続計画	1後	1			1					3	
リスクコミュニケーション	1後	1			1						
災害と福祉法政策	1後	1			1						
災害医療と地域包括ケア	2前	1			1	2				1	
国際防災戦略と危機対応	2前	1			1						
	小計(23科目)	—	8	19	0	10	5	0	1	0	38
特別研究科目	特別演習 I	1前	1			14	12	1	1		
	特別演習 II	1後	1			14	12	1	1		
	特別演習 III	2前	1			14	12	1	1		
	特別演習 IV	2後	1			14	12	1	1		
	小計(4科目)	—	4	0	0	14	12	1	1	0	0
	合計(38科目)	—	25	20	0	14	12	1	1	0	48

卒業要件及び履修方法

修了要件は所定の単位を30単位以上(基盤科目6単位、実践科目7単位以上、専門科目13単位以上、特別研究科目4単位)を修得することに加え、学位論文または特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び最終試験に合格することとする。

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
基盤科目	SDGs概論	1前	1			4					4
	レジリエンス学概論	1前	1			7	1				
	データサイエンス概論	1前	1			2					3
	デジタルエスノグラフィ実習	1前	1			1					2
	サーベイメソッド・プログラム評価法	1前	1			1					1
	プロジェクトマネジメント概論	1前	1			1					1
	小計(6科目)	—	6	0	0	9	1	0	0	0	11
実践科目	地域協働インターンシップ I	1前	1			3					
	地域協働インターンシップ II	1後	1			3					
	地域レジリエンスPBL I	1前	2			7	2		1		2
	地域レジリエンスPBL II	1後	2			7	2		1		2
	地域レジリエンスPBL III	2前	2			7	2		1		2
	小計(5科目)	—	7	1	0	7	2	0	1	0	2
専門科目	人類学特論	1後	1			1					1
	環境情報マネジメント	1後	1			1					
	環境経済学(未開講)	1前	1			1					
	自然社会環境論	1後	1			1					
	コミュニティ心理学特論	2前	1			2		1	1		2
	公共ガバナンス論 I	2前	1			1					
	公共ガバナンス論 II	2前	1			1					
	地域マネジメント論 I	1前	1			1					
	地域マネジメント論 II	1後	1			1					
	海城社会学	1後	1			1					1
	ミクロ経済学	1前	1			1					1
	景観まちづくり	1後	1			1					1
	センシングと応用	1前	2			1	1		1		23
	ICT/データサイエンス/AI特論	1後	2			1					
知能的食料生産科学特論	1後	2			1						
災害情報学	2前	1			2	1				5	
バイオインフォマティクス特論	2前	1			1					1	
防災・減災工学	1前	2			1					2	
危機管理と事前復興・事業継続計画	1後	1			1					3	
リスクコミュニケーション	1後	1			1						
災害と福祉法政策	1後	1			1						
災害医療と地域包括ケア	2前	1			1	2				1	
国際防災戦略と危機対応	2前	1			1						
	小計(23科目)	—	8	19	0	11	4	0	1	0	38
特別研究科目	特別演習 I	1前	1			14	12	1	1		
	特別演習 II	1後	1			14	12	1	1		
	特別演習 III	2前	1			14	12	1	1		
	特別演習 IV	2後	1			14	12	1	1		
	小計(4科目)	—	4	0	0	14	12	1	1	0	0
	合計(38科目)	—	25	20	0	15	11	1	1	0	48

卒業要件及び履修方法

修了要件は所定の単位を30単位以上(基盤科目6単位、実践科目7単位以上、専門科目13単位以上、特別研究科目4単位)を修得することに加え、学位論文または特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び最終試験に合格することとする。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和5年度】**

- ・昇任のため、「コミュニティ心理学特論」の専任教員の配置を「准教授2」から「准教授1」、「教授0」から「教授1」に変更。
- ・昇任のため、「特別演習Ⅰ」「特別演習Ⅱ」「特別演習Ⅲ」「特別演習Ⅳ」の専任教員の配置を「准教授12」から「准教授11」、「教授14」から「教授15」に変更。
- ・兼任・兼任教員追加のため、「地域レジリエンスPBLⅠ」「地域レジリエンスPBLⅡ」「地域レジリエンスPBLⅢ」の兼任・兼任教員の配置を「兼任・兼任0」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程充実のため、「環境経済学」「ICT/データサイエンス/AI特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

- (注)
- ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
20 科目	18 科目	0 科目	38 科目	20 科目 [ ]	18 科目 [ ]	0 科目 [ ]	38 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						該当なし
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						該当なし
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{38} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	321,266 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	321,266 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	79,745 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	79,745 m <sup>2</sup>				
	小 計	401,011 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	401,011 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	4,257,149 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,257,149 m <sup>2</sup>				
	合 計	4,658,160 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,658,160 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	220,539 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	220,539 m <sup>2</sup>				
	(220,539 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	(220,539 m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 施設整備によるもの (5)			
	145 132室	89 93室	561 558室	31 32室 (補助職員 0人)	7 9室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	地域レジリエンス学環		28 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用部分を含む 施設整備によるもの (5)	
	地域レジリエンス学環	1,127,466 [322,765] (1,128,057 +127,466 [321,839 322,765])	23,707 [7,781] (23,557 23,707 [7,596 7,784])	4,029 [2,415] (3,870 4,029 [2,216 2,415])	6,978 (7,035 6,978)	12,269 (12,414 12,269)	1 (1)		
	計	1,127,466 [322,765] (1,128,057 +127,466 [321,839 322,765])	23,707 [7,781] (23,557 23,707 [7,596 7,784])	4,029 [2,415] (3,870 4,029 [2,216 2,415])	6,978 (7,035 6,978)	12,269 (12,414 12,269)	1 (1)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 施設整備によるもの (5)		
	10,615 m <sup>2</sup>		979 989		782,556 784,833				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	10,486 m <sup>2</sup>		武道場1、弓道場1、テニスコート22面、水泳プール4基						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	愛媛大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考				
法学部	4	365	3年次30	1520	-	1.03	-	1.07	1.03	-	昭和43	-						
人文社会学科 昼間主コース	4	275	3年次10	1120	学士 (法学・政治学、学術、人文学)	1.02	-	1.05	1.02	-	平成28	愛媛県松山市文京町3番						
人文社会学科 夜間主コース	4	90	3年次20	400	学士 (法学・政治学、人文学)	1.05	-	1.11	1.05	-	平成28	同上						
教育学部	4	160	-	640	-	1.02	-	1.06	1.05	-	昭和24	-						
学校教育教員養成課程	4	160	-	640	学士 (教育学)	1.02	-	1.06	1.05	-	平成11	愛媛県松山市文京町3番	令和2年度から入学定員増(20)					
社会共創学部	4	180	-	720	-	1.03	-	1.05	1.03	-	平成28	-						
産業マネジメント学科	4	70	-	280	学士 (社会共創学)	1.02	-	1.06	1.02	-	平成28	愛媛県松山市文京町3番						
産業イノベーション学科	4	25	-	100	学士 (社会共創学)	1.03	-	1.03	1.02	-	平成28	同上						
環境デザイン学科	4	35	-	140	学士 (社会共創学)	1.03	-	1.05	1.03	-	平成28	同上						
地域資源マネジメント学科	4	50	-	200	学士 (社会共創学)	1.04	-	1.05	1.04	-	平成28	同上						
理学部	4	225	-	900	-	1.05	1.05	1.12	1.06	-	昭和43	-						
理学科	4	225	-	900	学士 (理学)	1.05	1.05	1.09	1.04	-	平成31	愛媛県松山市文京町2番5号						
医学部	-	170	2年次5 3年次10	945	-	-	-	-	-	-	昭和48	-						
医学科	6	110	2年次5	685	学士 (医学)	1.00	-	1.01	1.00	令和5	昭和48	愛媛県東温市志津川454	令和5年度入学定員増(15)					
看護学科	4	60	3年次10	260	学士 (看護学)	1.00	-	0.96	-	-	平成6	同上						
工学部	4	500	3年次10	2020	-	1.01	-	1.05	1.01	-	昭和24	-						
工学科	4	500	3年次10	2020	学士 (工学)	1.01	-	1.03	1.01	-	平成31	愛媛県松山市文京町3番						
農学部	4	170	3年次10	700	-	1.05	-	1.09	1.06	-	昭和29	-						
食料生産学科	4	70	3年次5	290	学士 (農学)	1.06	-	1.11	1.07	-	平成28	愛媛県松山市榑味3丁目5番7号						
生命機能学科	4	45	3年次2	184	学士 (農学)	1.04	-	1.05	1.02	-	平成28	同上						
生物環境学科	4	55	3年次3	226	学士 (農学)	1.03	-	1.08	1.07	-	平成28	同上						
大学全体	-	1770	2年次5 3年次60	7445	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。  
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

## 5 教員組織の状況

<地域レジリエンス学環>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	鈴木 静  <令和5年4月> 修士(地域政策)※
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 災害と福祉法政策 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	西村 勝志  <令和5年4月> 経営学修士※
		SDGs概論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	今村 健志  <令和5年4月> 博士(医学)
		レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップ I 地域協働インターンシップ II※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III バイオインフォマティクス特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	佐藤 格夫  <令和5年4月> 博士(医学)
		災害医療と地域包括ケア※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	鈴木 静  <令和5年4月> 修士(地域政策)※
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 災害と福祉法政策 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	西村 勝志  <令和5年4月> 経営学修士※
		SDGs概論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	今村 健志  <令和5年4月> 博士(医学)
		レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップ I 地域協働インターンシップ II※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III バイオインフォマティクス特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	佐藤 格夫  <令和5年4月> 博士(医学)
		災害医療と地域包括ケア※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	陶山 啓子 ＜令和5年4月＞ 博士(看護学)
		災害医療と地域包括ケア※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	森脇 亮 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ センシングと応用※ 災害情報学※ 危機管理と事前復興・事業継続計画※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	松村 暢彦 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップⅠ 地域協働インターンシップⅡ※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 地域マネジメント論Ⅰ 地域マネジメント論Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	NETRA Prakash Bhandary ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		防災・減災工学 国際防災戦略と危機対応 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	陶山 啓子 ＜令和5年4月＞ 博士(看護学)
		災害医療と地域包括ケア※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	森脇 亮 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ センシングと応用※ 災害情報学※ 危機管理と事前復興・事業継続計画※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	松村 暢彦 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップⅠ 地域協働インターンシップⅡ※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 地域マネジメント論Ⅰ 地域マネジメント論Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	NETRA Prakash Bhandary ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		防災・減災工学 国際防災戦略と危機対応 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	二宮 崇 <令和5年4月> 博士(理学)
		データサイエンス概論※ ICT/データサイエンス/AI特論 災害情報学※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	平野 幹 <令和5年4月> 博士(数理学)
		レジリエンス学概論※ データサイエンス概論※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	本田 理恵 <令和5年4月> 博士(理学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	羽藤 堅治 <令和5年4月> 博士(農学)
		レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップⅠ 地域協働インターンシップⅡ※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 知的食料生産科学特論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	二宮 崇 <令和5年4月> 博士(理学)
		データサイエンス概論※ ICT/データサイエンス/AI特論 災害情報学※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	平野 幹 <令和5年4月> 博士(数理学)
		レジリエンス学概論※ データサイエンス概論※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	本田 理恵 <令和5年4月> 博士(理学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	教授	羽藤 堅治 <令和5年4月> 博士(農学)
		レジリエンス学概論※ 地域協働インターンシップⅠ 地域協働インターンシップⅡ※ 地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 知的食料生産科学特論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 修 <令和5年4月> 博士(農学)
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	小林 範之 <令和5年4月> 博士(農学)
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	渡邊(井口) 敬逸 修士(理学)
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	ルブレヒト クリストフ ダビッド デイトフリード Doctor of Philosophy (オーストラリア)
		自然社会環境論 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	李 賢映 <令和5年4月> 博士(学術)
		環境情報マネジメント 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	入江 賀子 <令和5年4月> 博士(農学)
		環境経済学 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 修 <令和5年4月> 博士(農学)
		SDGs概論※ レジリエンス学概論※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	小林 範之 <令和5年4月> 博士(農学)
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	渡邊(井口) 敬逸 修士(理学)
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	ルブレヒト クリストフ ダビッド デイトフリード Doctor of Philosophy (オーストラリア)
		自然社会環境論 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	李 賢映 <令和5年4月> 博士(学術)
		環境情報マネジメント 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	入江 賀子 <令和5年4月> 博士(農学)
		環境経済学 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	富田 英司 <令和5年4月> 博士(心理学)
		レジリエンス学概論※ デジタルエスノグラフィー実習※ サーベイメソッド・プログラム評価法※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III コミュニティ心理学特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	相模 健人 <令和5年4月> 博士(学校教育学)
		コミュニティ心理学特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	山田 誠 <令和5年4月> 教育学修士※
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	片岡 智哉 <令和5年4月> 博士(工学)
		センシングと応用※ 災害情報学※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	羽鳥 剛史 <令和5年4月> 博士(工学)
		公共ガバナンス論 I 公共ガバナンス論 II 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	富田 英司 <令和5年4月> 博士(心理学)
		レジリエンス学概論※ デジタルエスノグラフィー実習※ サーベイメソッド・プログラム評価法※ 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III コミュニティ心理学特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	教授	相模 健人 <令和5年4月> 博士(学校教育学)
		コミュニティ心理学特論※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	山田 誠 <令和5年4月> 教育学修士※
		特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	片岡 智哉 <令和5年4月> 博士(工学)
		センシングと応用※ 災害情報学※ 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV
専	准教授	羽鳥 剛史 <令和5年4月> 博士(工学)
		公共ガバナンス論 I 公共ガバナンス論 II 地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 特別演習 I 特別演習 II 特別演習 III 特別演習 IV

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	二神 透 <令和5年4月> 学術博士
		リスクコミュニケーション 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	准教授	間々田 理彦 <令和5年4月> 博士(農業経済学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	准教授	泉 智揮 <令和5年4月> 博士(農学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	講師	片岡 由香 <令和5年4月> 博士(工学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	助教	白柳 洋俊 <令和5年4月> 博士(工学)
		地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 景観まちづくり センシングと応用※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
兼任	教授	佐藤 哲 <令和5年4月> 理学博士
		SDGs概論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	二神 透 <令和5年4月> 学術博士
		リスクコミュニケーション 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	准教授	間々田 理彦 <令和5年4月> 博士(農業経済学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	准教授	泉 智揮 <令和5年4月> 博士(農学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	講師	片岡 由香 <令和5年4月> 博士(工学)
		特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
専	助教	白柳 洋俊 <令和5年4月> 博士(工学)
		地域レジリエンスPBLⅠ 地域レジリエンスPBLⅡ 地域レジリエンスPBLⅢ 景観まちづくり センシングと応用※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ 特別演習Ⅳ
兼任	教授	佐藤 哲 <令和5年4月> 理学博士
		SDGs概論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	曾我 亘由 ＜令和5年4月＞ 博士(経済学)
		ミクロ経済学
兼任	教授	藤村 一美 ＜令和5年4月＞ 博士(保健学)
		災害医療と地域包括ケア※
兼任	教授	中畑 和之 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	岡村 未対 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※ 防災・減災工学
兼任	教授	日向 博文 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※ 災害情報学※
兼任	教授	中原 真也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		SDGs概論※ センシングと応用※
兼任	教授	安原 英明 ＜令和5年4月＞ Ph.D(アメリカ)
		災害情報学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	曾我 亘由 ＜令和5年4月＞ 博士(経済学)
		ミクロ経済学
兼任	教授	藤村 一美 ＜令和5年4月＞ 博士(保健学)
		災害医療と地域包括ケア※
兼任	教授	中畑 和之 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	岡村 未対 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※ 防災・減災工学
兼任	教授	日向 博文 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※ 災害情報学※
兼任	教授	中原 真也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		SDGs概論※ センシングと応用※
兼任	講師	安原 英明 ＜令和5年4月＞ Ph.D(アメリカ)
		災害情報学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	黄木 景二 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	野村 信福 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		センシングと応用※
兼任	教授	吉井 稔雄 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	板垣 吉晃 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	斎藤 全 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	井堀 春生 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	青野 宏通 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	黄木 景二 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	野村 信福 ＜令和5年4月＞ 工学博士
		センシングと応用※
兼任	教授	吉井 稔雄 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	板垣 吉晃 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	斎藤 全 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	井堀 春生 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	青野 宏通 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	松口 正信 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		センシングと応用※
兼任	教授	都築 伸二 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	神野 雅文 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	松浦 真也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		データサイエンス概論※
兼任	教授	前田 眞 ＜令和5年4月＞ 工学士
		SDGs概論※
兼任	准教授	石黒 聡士 ＜令和5年4月＞ 博士(地理学)
		災害情報学※
兼任	准教授	竹下 浩子 ＜令和5年4月＞ 修士(家政学)
		SDGs概論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	松口 正信 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		センシングと応用※
兼任	教授	都築 伸二 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	神野 雅文 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	教授	松浦 真也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		データサイエンス概論※
兼任	教授	前田 眞 ＜令和5年4月＞ 工学士
		SDGs概論※
兼任	准教授	石黒 聡士 ＜令和5年4月＞ 博士(地理学)
		災害情報学※
兼任	准教授	竹下 浩子 ＜令和5年4月＞ 修士(家政学)
		SDGs概論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	三宅 洋 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	木下 尚樹 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		危機管理と事前復興・事業継続計画※
兼任	准教授	倉内 慎也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	河合 慶有 ＜令和5年4月＞ Ph.D(シンガポール)
		センシングと応用※
兼任	准教授	岩本 幸治 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	向笠 忍 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	山口 修平 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	三宅 洋 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	木下 尚樹 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		危機管理と事前復興・事業継続計画※
兼任	准教授	倉内 慎也 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	河合 慶有 ＜令和5年4月＞ Ph.D(シンガポール)
		センシングと応用※
兼任	准教授	岩本 幸治 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	向笠 忍 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	山口 修平 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐々木 秀顕 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	甲斐 博 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		データサイエンス概論※
兼任	准教授	竹ノ内 徳人 ＜令和5年4月＞ 博士(水産学)
		海域社会論
兼任	准教授	丸山 智子 ＜令和5年4月＞ 博士(学術)
		プロジェクトマネジメント概論
兼任	講師	梅田 崇広 ＜令和5年4月＞ 博士(教育学)
		デジタルエスノグラフィー実習※
兼任	講師	水上 孝一 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	講師	木下 浩二 ＜令和5年4月＞ 博士(情報学)
		災害情報学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐々木 秀顕 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	准教授	甲斐 博 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		データサイエンス概論※
兼任	准教授	竹ノ内 徳人 ＜令和5年4月＞ 博士(水産学)
		海域社会論
兼任	准教授	丸山 智子 ＜令和5年4月＞ 博士(学術)
		プロジェクトマネジメント概論
兼任	講師	梅田 崇広 ＜令和5年4月＞ 博士(教育学)
		デジタルエスノグラフィー実習※
兼任	講師	水上 孝一 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		センシングと応用※
兼任	講師	木下 浩二 ＜令和5年4月＞ 博士(情報学)
		災害情報学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	齋藤 卓 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		バイオインフォマティクス特論※
兼任	助教	小野 耕平 ＜令和5年4月＞ 博士(農学)
		防災・減災工学
兼任	助教	坪田 隆宏 ＜令和5年4月＞ Ph.D(オーストラリア)
		センシングと応用※
兼任	助教	一色 正晴 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		災害情報学※
兼任	助教	王 森岭 ＜令和5年4月＞ 博士(情報工学)
		データサイエンス概論※
兼任	講師	坪田 康 ＜令和5年4月＞ 情報学修士
		デジタルエスノグラフィー実習※
兼任	講師	飯嶋 秀治 ＜令和5年4月＞ 博士(人間環境学)
		人類学特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	齋藤 卓 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		バイオインフォマティクス特論※
兼任	助教	小野 耕平 ＜令和5年4月＞ 博士(農学)
		防災・減災工学
兼任	准教授	坪田 隆宏 ＜令和5年4月＞ Ph.D(オーストラリア)
		センシングと応用※
兼任	助教	一色 正晴 ＜令和5年4月＞ 博士(工学)
		災害情報学※
兼任	助教	王 森岭 ＜令和5年4月＞ 博士(情報工学)
		データサイエンス概論※
兼任	講師	坪田 康 ＜令和5年4月＞ 情報学修士
		デジタルエスノグラフィー実習※
兼任	講師	飯嶋 秀治 ＜令和5年4月＞ 博士(人間環境学)
		人類学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	泉谷 道子 ＜令和5年4月＞ 博士(心理学)
		コミュニティ心理学特論※
兼任	講師	田中 博 ＜令和5年4月＞ Master of Arts (イギリス)
		サーベイメソッド・プログラム評価法※
兼任	講師	野満 育朗 ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		コミュニティ心理学特論※
兼任	講師	新宮 圭一 ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		危機管理と事前復興・事業継続計画※
兼任	講師	芝 大輔 ＜令和5年4月＞ 学士(経営学)
		危機管理と事前復興・事業継続計画※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	泉谷 道子 ＜令和5年4月＞ 博士(心理学)
		コミュニティ心理学特論※
兼任	講師	田中 博 ＜令和5年4月＞ Master of Arts (イギリス)
		サーベイメソッド・プログラム評価法※
兼任	講師	野満 育朗 ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		コミュニティ心理学特論※
兼任	講師	新宮 圭一 ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		危機管理と事前復興・事業継続計画※
兼任	講師	芝 大輔 ＜令和5年4月＞ 学士(経営学)
		地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III 危機管理と事前復興・事業継続計画※
兼任	講師	越智 正昭 ＜令和5年5月＞ 工学士
		地域レジリエンスPBL I 地域レジリエンスPBL II 地域レジリエンスPBL III

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

**【令和5年度】**

- ・昇任のため、相模健人准教授の職名を「教授」に変更。
- ・退職のため、安原英明教授の所属先を「専任」から「兼任」、職名を「教授」から「講師」に変更。
- ・昇任のため、三宅洋准教授の職名を「教授」に変更。
- ・昇任のため、坪田隆宏助教の職名を「准教授」に変更。
- ・講義内容を充実させるため、芝大輔講師に「地域レジリエンスPBL I」「地域レジリエンスPBL II」「地域レジリエンスPBL III」の授業科目を追加。
- ・講義内容を充実させるため、越智正昭講師を追加。なお、追加後は「地域レジリエンスPBL I」「地域レジリエンスPBL II」「地域レジリエンスPBL III」の授業科目を担当。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
14	12	1	1	28	0	15	11	1	1	28	0
(15)	(11)	(1)	(1)	(28)	(0)						
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
20	13	8	0			20	14	8	0		
(20)	(14)	(8)	(0)			(20)	(14)	(8)	(0)		
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
15	11	1	1	28	0	17	12	1	1	31	0
[ 1 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3 ]	[ 0 ]
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
20	14	8	0			23	16	8	0		
[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]			[ 3 ]	[ 3 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要審査済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 ( ) 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 ( ) 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul>
---

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul>
---

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	0	科目	計	0	科目	計	0

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{28} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
    - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <地域レジリエンス学環>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 学環委員会が中心となり、教員の資質の維持向上に取り組んでいる。</p> <p>愛媛大学大学院地域レジリエンス学環委員会規程</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規程は、愛媛大学大学院学環委員会規程(以下「大学院学環委員会規程」という。)第4条第3項の規定に基づき、愛媛大学大学院地域レジリエンス学環(以下「学環」という。)に設置する委員会(以下「学環委員会」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(組織)</p> <p>第2条 学環委員会は、次に掲げる構成員をもって組織する。</p> <p>(1) 学環長 (2) 学環を構成する教員</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 学環委員会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるために審議する。</p> <p>(1) 大学院学生の入学、修了及び学位の授与に関する事項 (2) 大学院学生の懲戒に関する事項 2 学環委員会は、前項に掲げるもののほか、学環の教育研究に関する重要事項で、学環委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める次の各号に掲げる事項について、審議する。</p> <p>(1) 長期的な目標及び中期目標・中期計画に関する事項 (2) 諸規則の制定又は改廃に関する事項 (3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項 (4) 教員の採用及び昇任のための選考に関する事項 (5) 教育課程の編成に関する事項 (6) 大学院学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項 (7) 前項第1号に定めるもののほか大学院学生の在籍に関する事項 (8) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項 3 学環委員会は、前2項に規定するもののほか、学長及び学環長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>(議長等)</p> <p>第4条 学環委員会は、学環長が招集し、その議長となる。</p> <p>2 学環長に事故があるときは、学環長があらかじめ指名する者が議長の職務を代行する。</p> <p>(議事等)</p> <p>第5条 学環委員会は、構成員の過半数の出席(以下「定足数」という。)がなければ議事を開くことができない。ただし、第3条第1項第1号のうち学位論文の審査及び最終試験の合否決定については、構成員の3分の2以上の出席がなければならない。</p> <p>2 議事は出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、第3条第1項第1号のうち学位論文の審査及び最終試験の合否決定については、出席した構成員の3分の2以上の賛成がなければならない。</p> <p>3 構成員が次の各号のいずれかに該当し、学環委員会に出席できない場合は、定足数の算定から除外する。</p> <p>(1) 出張及び研修のため本務地を離れる者 (2) 休職、出勤停止、停職、育児休業、産前産後休暇、介護休業及び病気休暇中の者</p> <p>(会議)</p> <p>第6条 学環委員会に、学環の円滑な運営を図るため、愛媛大学大学院地域レジリエンス学環運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。</p> <p>2 運営会議に関し、必要な事項は別に定める。</p> <p>(委員会)</p> <p>第7条 学環委員会に、学環に係る審議事項についてあらかじめ調整するため、各種委員会を置くことができる。</p>
---

(構成員以外の出席)

第8条 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を学環委員会に出席させることができる。

(事務)

第9条 学環委員会の事務は、教育学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、学環委員会に関し必要な事項は、学環委員会が定める。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

令和4年度は前身の「地域レジリエンス学環設置準備室企画運営委員会」として、7月から開始し5回開催した(参加状況:平均13.6名/16名)。

c 委員会の審議事項等

地域レジリエンス学環設置準備室企画運営委員会(学環委員会の前身)は以下に定める事項を審議した。

- ・ 教育課程に関すること。
- ・ 授業計画に関すること。
- ・ 教務関係行事日程に関すること。
- ・ 入試に関すること。
- ・ 学生生活に関すること。
- ・ 規則に関すること。
- ・ 教員人事に関すること
- ・ 非常勤講師に関すること。
- ・ 学生の履修指導に関すること。
- ・ 学生の修学に関すること。
- ・ その他教務に関すること。

## ② 実施状況

a 実施内容

- ・ 教育コーディネーター研修会
- ・ 授業方法についての確認
- ・ UdeMyBusiness(実務直結型オンライン動画学習プラットフォーム)でのスキルアップ研修

b 実施方法

- ・ 教育コーディネーター研修会  
全学の教育コーディネーターを中心に、対面で実施し、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学修支援の改善を継続的に行うことを目的とした、アセスメントプランの策定方法など、他大学の事例をもとに学習した。
- ・ 授業方法についての確認  
講義担当教員が中心となり、実際の経験と他大学の事例を踏まえ、学生の理解度・研究までの流れを考慮に入れながら社会で実践できるスキルが身につくような授業の構築を目指し、オンラインで実施した。
- ・ UdeMyBusinessでのスキルアップ研修  
学環委員会の前身の「地域レジリエンス学環設置準備室企画運営委員会」が中心となり、各専任教員の授業テーマに沿ったスキルを、動画学習プラットフォーム(e-ラーニング)を使用して学び、教育の質の向上につなげた。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・ 教育コーディネーター研修会  
〈令和4年7月26日開催 教員6名、職員2名参加〉
- ・ 授業方法についての確認  
〈令和5年3月13日開催 以降は、メール等で随時情報交換 教員教員6名、職員2名参加〉
- ・ UdeMyBusinessでのスキルアップ研修  
〈令和4年8月1日から使用を開始し3月31日まで随時学習 教員教員28名、職員4名〉

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 教育コーディネーター研修会のテーマであったアセスメントプランに関しては、学生の学修成果の評価等に活用を検討している。
- ・ 授業方法についての確認は、随時行っており、学生の理解度や動向を見ながら、一人一人の学生に添うようよりよい講義構築をめざし常にブラッシュアップさせている。
- ・ UdeMyBusinessでのスキルアップ研修は、学環の学生の通常講義、実践研究にも活用している。また、教員のスキルアップにも活用している。
- ・ 参加した研修会・授業評価アンケート等の内容を取り入れ、各教員が次年度の授業改善に取り組む。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業改善のためのアンケートについては、修学支援システム(Webサイト)を利用したアンケートを実施する予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業及び到達度評価のアンケート結果については、学環委員会で共有し、課題の抽出や解決方法の検討を行い、必要時、授業担当教員にフィードバックし、授業改善に活用する予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の計画どおりの授業科目で開講中（予定）である。社会人学生も多いこともあり、18時以降の講義や土曜日開講講義も取り入れるとともに、eラーニング教材の提供やメールの活用をすべく準備を整えており、学生の学修機会の確保はできていることから、設置の趣旨・目的は達成できると判断している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年8月頃 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けたため、令和10年度までに受審を予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。